

亀岡大郎の トップ対談



経済評論家 亀岡大郎氏

■プロフィール
★大正15年京城生まれ。新大阪新聞経済部長を経て経済評論家となる。文藝春秋、サンデーなど一流誌で、経済・財界問題を中心に、精力的な活動を続ける一方で「自動車戦争」「ゲリラ商法」「IBMの人事管理」などベストセラー多数。

入院で貸し テレビ事業考案

亀岡 家具・家電のレンタル会社だと聞きましたがいつから事業をやっているのですか。

中塚 高度経済成長の真っただ中、大量生産、大量消費が当たり前だった1971年にレンタル業をスタートしました。先代である父親が「入院患者向けの貸しテレビ」を思いついたのが始まりです。

亀岡 当時はまだまだテレビは高価なものでした。どうやってレンタルで提供できるだけのテレビを保有していたのですか。

中塚 63年から大阪府豊中市でいわゆる「町の電気屋さん」を営んでいました。カラーテレビが広く普及し始めた60年後半から、不用になった白黒テレビを引き取ることが増えてきました。そんな折、父親が病気で倒れ、そのうちの一台を病院に持ち込みました。

亀岡 入院中にテレビが暇つぶしになると思いついたのですね。

中塚 父は、自分以外の患者もテレビがあれば、うれしいだろうと考え、本来なら廃棄するはずの機器を活用し、レンタルする事業を始めました。ただし、

すべて借りる時代に突入

エイトレント(東京都品川区) 中塚克敏社長(56)



プロフィール

1960年12月17日、滋賀県生まれ。86年5月、米・ネブラスカ州クレイトン大学ビジネス学部卒業。87年4月、清水建設入社する。90年4月、父親が社長を務めるエイトレントに入社。統括部取締役、東京支店支店長、常務取締役を経て2005年12月、代表に就任。07年7月、什器・備品レンタル協会設立し、代表理事に就任する。17年、シェアリングエコノミー協会に加盟。大学生と社会人の息子がいる。趣味は掃除とゴルフ。ベストスコアは82で70を目指し、練習している。

家具・家電、OA機器などのレンタルを行うエイトレント(東京都品川区)。高度経済成長期に「貸しテレビ」を開始し、中国にもレンタル事業を展開している。

「レンタル」を理解してもらうにも苦労していました。こともあって「はい」と返答し、当時の日本人にとって聞きなれない言葉でしたからね。当時の日綿實業や日商、岩井産業、三和銀行(現・三菱東京UFJ銀行)がオリエント・リース(現・オリックス)を設立したとき、「東洋ソース」と書き間違えられたという滑稽な話もありました。

中塚 その後、オフィスやイベント会場などで使用するさまざまな商品を取り扱うようになり、74年に大阪と東京で開設された大きなイベントでレンタルの大きなイベントでレン

シェアリングサービスに商機

インバウンド 需要取り込む

亀岡 日本の賃貸市場にはどうアプローチをしようかと考えていますか。

中塚 近い将来、すべてがレンタルになる時代だと考えています。亀岡 銀座にも中国や韓国、最

中国で初の外資 レンタル会社設立

中塚 当社も国際社会に目を向け、高度経済成長を迎える中国に乗り出していました。先代が日本でレンタルビジネスを始め

中塚 中国の人は新しいものの好きだから、再利用するという感覚があまりないと思いますが。中塚 たしかに「もったいないからリユースする」という発想はないですが、日本のメーカーの製品を使いたいニーズがあります。100%出資会社として再



▲レンタル業の浸透について話に花が咲いた

近では東南アジアからも観光客が大勢来られています。住まいを通して日本文化を伝えることができると面白いですね。中塚 観光客のだけではなく、外国人の就労もこれからますます増えるため、住戸が必要となるときに対応することが社会的使命とします。介護現場で活躍する外国人を雇い入れる動きを政府が行っており、レンタルなしに住まいを提

中塚 レンタルに関する知識を世に広げ、レンタル業界の地位の向上しようという10年ほど前、

会社概要

会社名 エイトレント
所在地 東京都品川区大崎1-6-1 TOC大崎ビルディング10F・11F
創業 1963年6月
資本金 8000万円
従業員 215人
事業内容 家具・家電、OA機器、イベント関連機器、衣装のレンタル